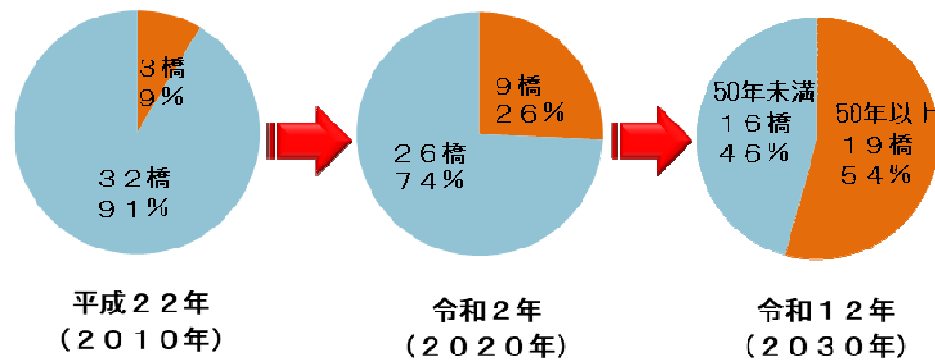


●背景と目的

- ◆早川町では、60橋（15m未満が25橋、15m以上が35橋）の橋梁を管理しています。このうち、竣工年の判明している橋梁は35橋です。
- ◆昭和55年以前に建設された橋梁（19橋）は、2030年には、すべてが築後50年以上経過することになり、老朽化していく橋梁の維持管理費及び更新費が、今後急速に増加していくことが予測されます。
- ◆この計画は、早川町が管理する橋梁の予防的な修繕を実施していくことによって、橋梁の安全確保やライフサイクルコスト縮減につなげます。



●橋梁の点検結果

- ◆早川町では、平成21年度から主要な橋梁の点検を実施し、その後も5年に1回、近接目視を基本とし橋梁の定期点検を実施しています。
- ◆橋の健全性は、点検結果をもとに橋の損傷状態等からⅠ～Ⅳの4つの区分に分類されます。対象橋梁60橋の各橋梁の直近の橋梁点検では、健全性Ⅰは21橋、健全性Ⅱは34橋、健全性Ⅲは5橋という診断結果でした。

| 健全性区分 | 定義 | 橋梁数 |
|-------|--|-----|
| Ⅰ | 道路橋の機能に支障が生じていない状態。 | 21橋 |
| Ⅱ | 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。 | 34橋 |
| Ⅲ | 道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。 | 5橋 |
| Ⅳ | 道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。 | 0橋 |

●基本方針

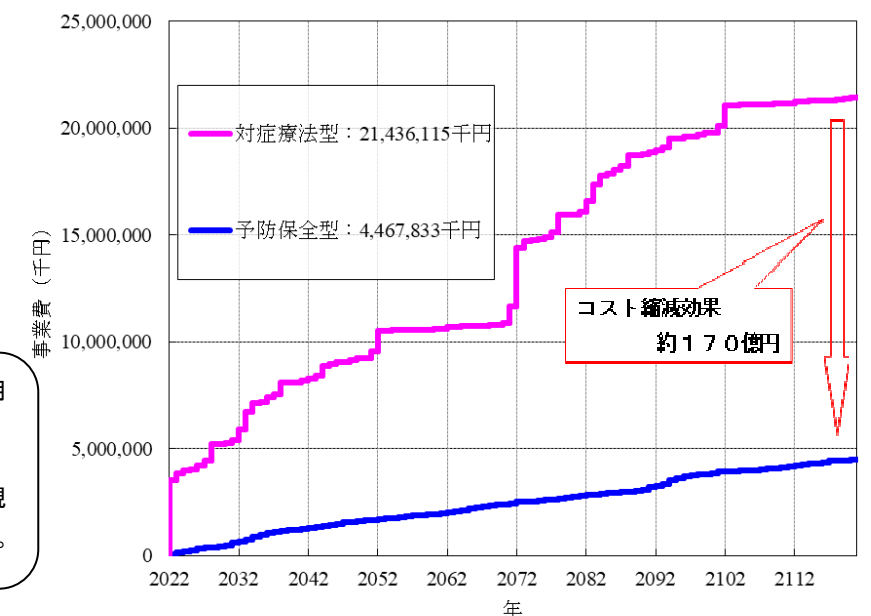
- ◆計画的な定期点検等で橋梁の損傷状況を正確に把握し、予防保全的な修繕等を実施することで、橋梁を長寿命化するとともに、修繕・架替え等に係る費用の大規模化を避け、維持管理費用の縮減を図ります。
- ◆橋梁の維持管理は、定期点検結果による健全性（Ⅰ～Ⅳの4段階）を指標とし、健全性Ⅰ（健全）の状態に保つことを目標とします。

| 点検の種類 | 頻度 | 目的 |
|-----------|-----------------|------------|
| 日常点検（職員） | パトロール時に実施する。 | 損傷の早期発見 |
| 定期点検（専門家） | 5年に1回を基本とする。 | 損傷の進行状況の把握 |
| 臨時点検（職員） | 災害時等必要に応じて実施する。 | 異常・損傷の点検 |

●橋梁長寿命化計画の効果

- ◆今後100年間のライフサイクルコストを比較すると、従来の対症療法型の約215億円に対し、橋梁長寿命化計画の実施による予防保全型が約45億円となり、約170億円のコスト縮減ができるという試算結果となりました。

対症療法型：これまでの一般的な維持管理手法で、使用上の問題が生じた段階で補修する。
 予防保全型：初期不良等の損傷を早い段階で補修し、現状で可能な長寿命工法を適用して補修する。



●今後5年間の計画

- ◆定期点検の結果による健全性Ⅲ判定および健全性Ⅱ判定の橋梁の損傷補修を実施します。
- ◆鋼部材の塗膜にPCB（ポリ塩化ビフェニル）が含まれている橋梁の塗装の塗替えを実施します。
- ◆重要度の高い主要な橋梁の耐震補強工事を実施し、橋梁の耐震化を図ります。
- ◆通行止めの路線に位置している橋梁の管理対象からの除外・撤去を検討します。
- ◆橋長5m未満の橋梁については、ボックスカルバートへの改築を検討し、維持管理費の軽減を図ります。
- ◆5年に1回の定期点検を実施し、点検結果による計画の見直しを行い、長寿命化修繕計画の更新を行います。